



迎春

1989年1月1日

洛友会会報

京都大学工学部
電気系教室内
洛友会
京都市左京区吉田本町

洛友会役員

常任幹事	九州支部長	東北支部長	四国支部長	北海道支部長	中国支部長	北陸支部長	中部支部長	関西支部長	東京支部長	副会長
" "	" "	" "	" "	" "	" "	" "	" "	" "	" "	会長

竹川近深三中池松野大角坂越池大吉上河金真本芦松
 村端藤町上川内谷村野田田坂上谷岡西本井田多原田
 文藤謹修義健精 邦延文泰俊亮勝久安静義長三
 清昭治吉五郎則郎二彰寛寿夫夫之男二寿衛夫雄重郎



トクデン株式会社 代表取締役 北野 山人	フジテック株式会社 取締役社長 内山正太郎	株式会社 島津製作所 取締役社長 西八條 實	株式会社 ダイハツ	財団法人 関西電気保安協会	京都大学 電気関係教室 教官一同
四国計測工業株式会社 取締役社長 矢野禮治郎 先端技術で地域に奉仕	四電エンジニアリング株式会社 取締役社長 長島 修	栗原産業株式会社 代表取締役 栗原 英三	京阪電気鉄道株式会社	日新電機株式会社	株式会社 電気評論社

迎春

一九八九年一月一日

日立化成工業

株式会社

相談役 高木 正

高周波熱錬

株式会社

取締役社長 土方 利夫

千代田化工建設

株式会社

新春を迎えて

副会長 大谷 泰之

一九八九年の新春を迎えて、新年のご挨拶を申し上げると共に、会員の皆様の益々のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

さて昨年は前年に引続き、国内的にも国際的にも政治・産業経済・社会・教育・文化その他の面で大変革の年でありました。しかし乍ら円高等による不況も産業構造の变革や内需拡大への各界の努力により予想外に早く好況に転じ、着実に景気好調が続いている事は、この三月の新卒の極めて明るい就職状況からも明らかであり、本年も引続き全般的な好況が続くものと期待されています。

又一方気象分野でも昨年も異状気象が続いており、夏の豪雨や長雨と低温、そして9月の厳しい残暑、さらに11月下旬の異状寒波と予報に反して不安定な気象の連続でした。季節の移り変わりも例年よりも早く、本稿を書いている11月末現在、京都の紅葉も殆んど終わって落葉の晩秋になり、加茂川筋には渡り鳥のゆりかもめの群が見られるようになりました。紅葉と言え

ば去る11月28日の満95歳の誕生日を目出度く迎えられた本会々長松田先生も11月中旬、有名な東山の永観堂禅林寺と東福寺の紅葉を、長男夫人に付添われ見に行かれた

由です。現在北白川の自宅でご静養中の松田先生は時々お一人で外出されることもあり、10月下旬の京都国体開会式にも出かけられ途中で気分を悪くされて漸く帰宅されたこともあり、又11月初め若干の発熱があった由です。しかし今年正月の京大本部や母教室の新年の集りにも例年通りお元氣な乾杯のお声が聞かれるものと願っております。

次に例年通り昨年の5月下旬から6月下旬にかけて洛友会の各支部総会が、四国・中国・関西（本支部総会と同時）中部・東北・東京の順に開かれましたが、筆者は會長松田先生に代って止むを得ない所用のため欠席した中国、東北を除く各支部総会に出席させて頂きました。何れの総会でも話題になった事は先づ母教室建物の改築状況で特に思い出多い教室玄関のレング造りのポーチと銀杏の樹の話でした。昨年4月の会報にある高木俊宜名誉教授の詳細な報告の通り改築工事が進められ、昨年11月末現在写真（母教室竹田事務主任撮影）の通り枠組の間から懐しい玄関ポーチとその前に並ぶ銀杏の樹が見られるように迄なりました。尚この完成時期は夏頃になるとの事ですが、この機会に改築に尽力された教室の関係の皆様へ深謝申し上げます。

紙面の関係で支部総会に出席した時の1・2の印象のみを簡単に申し述べますと、大正から昭和はじめにかけて卒業された大先輩方のご高令にも拘らず益々お元氣な姿でした。例年通り中部支部総会に出席された本会副會長で前支部長である本多静雄さん（大13卒）や鳥羽から来られた田中卓次さん（大15卒）からは、共に90歳位のご高令にも負けず、海外旅行や意氣盛んな各種のご計画等の話を聞くことができました。又東京支部総会では米寿のお祝いを受けられた中村秀治さん（大10講卒）や山上孝さん（大14卒）のお元氣なスピーチも印象的でした。

尚東京支部では中島達二氏（昭22卒）から坂田邦寿氏（昭23卒）へ支部長の交替があり、又東北支部では永年支部長をされていた三國文治郎氏（昭16・12卒）が三上謹五氏（昭21卒）に交替されました。玆で前支部長の方々のご苦勞に厚くお礼申し上げます。次に講習所卒業生が洛友デル



タ会の全国大会が去る9月18日京都で開かれた事は別稿の通りですが、当日は珍らしく松田先生も出席され先生の作詞作曲になる洛友会の歌を自ら独唱される位のお元氣な姿が見られました。当日全国から出席された会員数は約60名、本会副會長越坂延夫氏（大10卒）や幹事荒井一郎氏（大10卒）も益々お元氣でした。

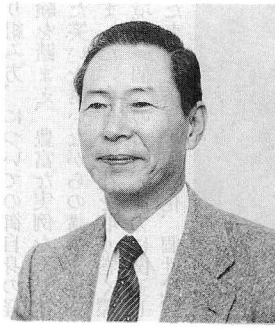
最後に本部常任幹事の近藤文治先生は応研理事長や大阪電気通信大学の学長の外に同大学の理事長も兼ねられ益々ご多忙を極めておられるにも拘らず洛友会の総元締としてのご苦勞頂いていることに對して深謝申し上げます。更に常任幹事の竹村清氏（昭13講卒）も応研の常務理事としてのお仕事の傍ら洛友会本部の一切の事務を献身的に処理しておられるご苦勞にも併せて深謝申し上げます。玆でこの本部事務を若干説明しますと、何と云っても二年目毎の名簿と年に四回の会報発行事務が中心であって、住所判明会員総数は11月末現在約5200名にもなる洛友会の本部としての事務量は相当なものであることは、年間を通じて住所変更者数だけでも、15%余もあり、更に名簿の広告の件数は支部役員のご努力により毎回200件以上になります。この広告の本部としての事務量も極

めて多いことも合せてご理解頂くことと思ひます。そしてこれら事務を処理して頂いている竹村常任幹事のご苦勞には全く頭の下る想いで一杯であります。

終りに、会員の皆様の益々のご

教室だより

池上文夫先生の停年ご退官について



移動通信の分野において世界の指導的役割を果たしてこられた池上文夫教授は、昭和64年3月31日をもって停年退官される。同教授は、昭和22年に京都帝国大学工学部電気工学科を卒業後、同年通信省電波局に入所、その後電気通信省を経て、昭和27年日本電信電話公社電気通信研究所に所属され、マイクロ波の伝搬と通信方式の研究に従事された。その後、横須賀電気通信研究所の複合伝送研究部長として、主として無線通信方式

健勝とご活躍ご多幸を祈りますと共に、洛友会本部及び支部役員の皆様のご協力ご援助に對して重ねて厚くお礼申し上げます。

(一九八八・一一・三〇記)

の研究・実用化に尽力された後、昭和50年4月に、京都大学工学部教授として迎えられ、電子工学教室電子回路工学講座を担当され、今日に至っている。

この間、日本電信電話公社電気通信研究所在職中は、創生期のマイクロ波通信における伝搬特性の解明に大きく寄与され、その後は、興隆期の各種マイクロ波通信、新しいシステムとしての衛星通信、移動通信の研究実用化にも尽力され、日本の無線通信技術を世界のトップへと高めるのに指導的役割を果たされた。

昭和50年京都大学に戻られてからは、研究対象として自動車電話に代表される移動通信の研究を取り上げられ、将来のデジタル技術による究極の通信を目指した多方面にわたる研究に独創的な成果を挙げられた。特に移動通信にお

ける電波伝搬の重要性を指摘され、電波測定車によるフィールドでの精細な伝搬測定を通じてシステムとのかわりを追求され、移動通信の研究におけるアンテナ・伝搬・システム三位一体の研究の必要性を学会等において力説されるところにもその実践に努められた。その結果、市街地伝搬における物理的伝搬モデルの有用性とそれに基づく各種伝搬特性の予測理論の展開、アンテナ指向性の重要性の指摘と指向性ダイバシティ受信の提案、デジタル移動通信におけるバースト誤り発生機構の分析耐多重波デジタル変復調方式の開発、移動メッセージ通信、樹枝状無線ゾーン構成の提案などの業績は、日本はもとより、世界的にも高く評価されている。

また、学外においては、電子通信学会(現、電子情報通信学会)の副会長、関西支部長、アンテナ伝播研究専門委員会委員長、85年アンテナ伝播国際シンポジウム組織委員会委員長、評議員などを務められ、現在も理事・研究組織委員会委員長として学会の発展に大きく貢献されている。さらに、郵政省電波技術審議会専門委員、宇宙開発委員会技術部会委員、国際無線通信諮問委員会(CCIR)作業部会議長などを務められたほか、現在も郵政省電気通信技術審

議会専門委員、郵政省通信総合研究所客員研究官、文部省宇宙科学研究所運営協議員などの要職を兼務されている。これらの業績に對して、米國IEEE学会のフェロー会員に推挙されたほか、電子通信学会論文賞、業績賞、電気通信

普及財団システム技術賞を受賞された。

このたび、同教授の退官を迎えるにあたり、左記の退官記念行事を行うことになっている。

(川端 昭)

記

1、退官記念講義

日時 昭和64年3月11日(土) 午後1時30分より
場所 京都大学工学部電気総合館大講義室
題目 「電波・通信の夢と現実
— 研究の道程と哲学を辿って —」

2、記念講演・パーティ

日時 昭和64年6月3日(土) 午後2時より
場所 ルネサンスホール(講演)
京都センチュリーホテル(パーティ)
(いずれもJRR京都駅前東側)

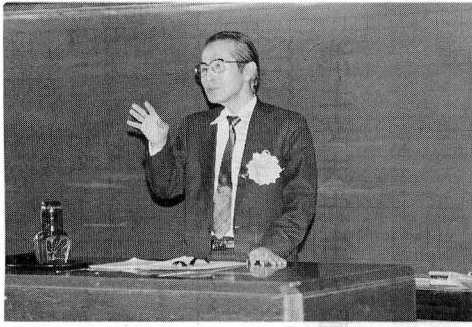
題目 「究極の通信を探る」

懇話会秋期講演会・懇親会について

恒例になりました電気系教室の秋の懇話会は、今年も例年通り、前期の試験が終了した10月22日土曜日に電気総合館大講義室にて開催され、先輩、教職員、学生多数が参加して、有意義な一日が過ぎました。

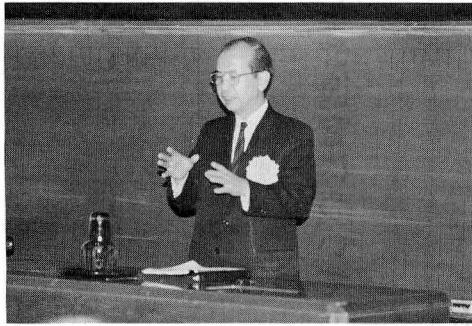
今年も、初めての試みとして、午前中は、4年生諸君の大学院入試突破の経験談と、修士2年生ならびに4年生諸君の就職活動と入社試験の報告が、後輩のために行なわれました。午後は例年通り、各分野でご活躍の諸先輩をお招きして御講演を拝聴しました。

先ず最初は「新しい企業環境と



期待される人間像」と題して、日立製作所副社長園山裕氏(昭22卒)の体験に基づき、含蓄のある話を伺いました。若い時の勉強と遊びが後でいかに役立つか、T定規形になれ、落第、失恋、大病が人を鍛える、上手になるか否かは熱中できるか否か出決まる、若さは夢と希望の持ち方で決まる等々聴衆は深い感銘を受けました。

二番目は「計測制御技術の将来」と題して、横河電機社長山中卓氏(昭26卒)の、ものの考え方、取り組み方、についての御自身の経験を踏まえ、豊富な実例を交じえた笑いを誘いながらの講演を伺いました。今日の会社を取り巻く環境と、個人の資質、能力に関連した事例を挙げ、国際化、個性化、



の時代に創造性の発揮するために、右脳と左脳のバランスが重要であり、論理的思考力と情緒的感性を計るための計測器の開発すら夢ではないなど、先端技術に対する計測技術の重要性と技術者の卒業後の在り方についてのお話に加えて、早い技術革新について行ける基礎教育をと、大学に対する注文もありました。

三番目に「高等教育の現状と将来」と題して、本学名誉教授大阪電気通信大学学長近藤文治先生(昭18卒)から、京大における御経験と私学におけるそれとを対比させながら、高等教育が置かれている現在の状況と、将来の在り方について伺いました。我国の戦後の発展は、大学の大衆化が大き



作用し、これが一方では雇用形態の変革の原動力となったが、第2次ベビーブーム以降の問題として、大学院の飛躍的充実と改革が最重要課題であることを強調された。

講演会終了後、会場を北部構内生協の北斗に移して、第二部のピヤパーティが盛大に行なわれた。御講演戴いた先輩を囲み、教職員在学生は勿論のこと、駆けつけた近隣地区の先輩共々和やかな時を過ごし、午後7時半頃閉会した。

支部だより

関西支部家族旅行会

関西支部では、11月3日(文化

の日)恒例の家族同伴旅行会を行なった。今年は今までのバス旅行とは一寸趣向を変え、二隻の水中翼船をチャーターしての、瀬戸大橋見学旅行を行なったが、大変な好評で船の定員一杯の参加(一隻当り、120人・合計240人)となった。

水中翼船は、一隻は大阪港天保山栈橋を8時30分に、もう一隻は神戸港中突堤を9時15分に出航し、共に瀬戸内海塩飽諸島の与島を目指した。

船は出航と同時にどんどん速度を上げ、70軒/時弱の速度で、進んだが、船の下の中水翼が水を切る浮揚力で船体全体が完全に海面上に浮き上り、飛ぶように走った。しかし、出航当初は曇空の下、風も稍きつく、海もうねって、船も大きくローリングし、船酔いする人が出るのではないかと心配したが、小豆島を左舷に見る頃には海もおだやかになり、快適な航海となった。

そして12時前、大阪発、神戸発とも相次いで与島港に到着し、下船後は早速瀬戸大橋京阪フィッシュヤーマンズワーフに入って、バイベキューガーデン「シスコ」での昼食懇親会に入った。

シスコは定員1000人の大バイベキューガーデンであるが、なかなか盛況で、我々はその一面を



借り切ったパーティとなった。2~3家族で一卓を囲み、イキのいい魚や貝などを焼き、シーフードの醍醐味を味わい乍らの家族を交えての同窓の集いに、つきぬ話題に花を咲かせた。

懇親会の後は、貸切バス三台に分乗して瀬戸大橋を見島まで渡り、橋の上から風光明媚な瀬戸内海の眺望を楽しんだり、又江戸時代末期に勝海舟が艦長となって、日本で始めて太平洋を横断したという「威臨丸」を模して作った三本マストの観光船、現代の威臨丸に乗って、橋の下から雄大な瀬戸大橋の景観を満喫した。

その後は、京阪フィッシュマンズワーフ周辺の花と緑の広場を散策し、或は館内で鯛やハマチのい



けず販売や四国・中国の特産品コーナーを見て廻って、ショッピングを楽しんで時間を費した。
そして、16時頃、再び二隻の水
中翼船に分乗し、暮れ行く塩飽諸
島の島影を後に、全員無事帰路に
ついた。

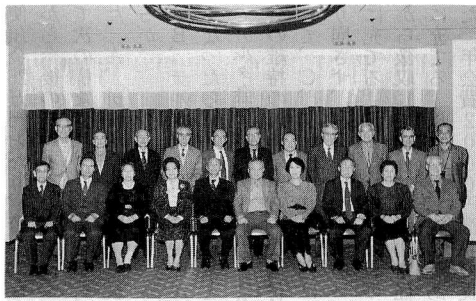
同窓会だより

卒業五十周年

記念クラス会

昭和13年卒業生の卒業50周年会
合として11月10・11日の両日奈良
大和路旅行を行った。

10日13時ホテルフジタ奈良に集
合、直ちに観光に向う。観光先と



京大電気13年会 於ホテルフジタ奈良 S. 63.11.10.

しては余り訪れない処を選んだ。
京都で学生時代を過ごしていたが、
案外見えない処が多いものだ。
法華寺の国宝十一面観音立像は
平安初期の名作といわれ白檀の一
木彫りで美貌の光明皇后のお姿を
写したといわれている。次いで車
は平城宮跡に向い資料館では最近
話題を呼んでいる長屋王家敷跡か
ら発見された多数の木簡が展示さ
れている。「長屋王」でなく「長屋
親王」の文字が明瞭に読みとれる
ものもある。

次の拝観は秋篠寺である。ここ
は平城京大極殿西北の台地にあり
現在残っている建物は講堂のみで
あるが当時の金堂東西の両塔等の
礎石は講堂の南の自然のままに繁
る樹林の中に残っている。御本尊

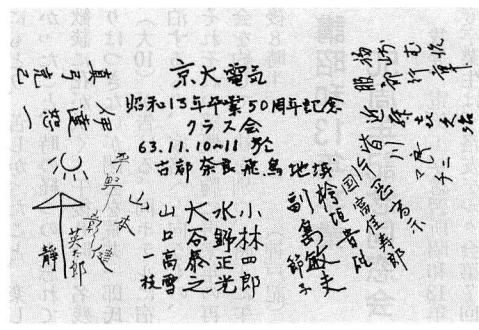
は薬師如来であるが、最も有名な
のは伎芸天である。頭部は乾漆天
平時代、体部寄木鎌倉時代の作で
我国唯一の伎芸天像である。時代
を隔ててなお保たれている調和と
写実的作風は限りない人間味を湛
えている。

次に訪れたのは唐招提寺。聖武
天皇の寵招に依り中国より来朝し
た鑑真和尚が754年(天平勝宝
6年)に開山。み仏のもとに修行
する人たちの場として創建され今
も日本律宗総本山として仰がれて
いる。

薬師寺の拝観を最後にホテルフ
ジタに投宿6時より会食に入る。
先づ小林幹事の挨拶の後大谷氏よ
り母校京大の現況報告等あり、続
いて各人約3分を目標に近況報告
を始めた。処がとても3分では終
らない。軍隊時代の話やら体調の
話やら、久方振りの会合でどうし
ても話は長くなる。幹事再度各人
持ち時間を10分以内として8時半
頃ようやく終る。

尚今回の案内を出したのは37
名、今日の出席者は会員17名夫人
4名計21名であった。因に会員の
出席率46%、夫人を含めると57%
となる。

翌11日は先づ法隆寺拝観。木造
建築として世界最古のもの。大講
堂には本尊薬師三尊、金堂内では
本尊金銅薬師像等平安時代の仏像



を拝む。さらに中宮寺において、
東洋美術における「考える像」で
有名な思惟半跏の像、飛鳥時代の
彫刻の最高傑作であると同時に我
国美術史を語るときに欠かすこと
のできない「弥勒菩薩像」を拝む。
その美しい「古典的微笑」にみと
れることしばし。

車は東方に進み桜井市内を通過
してより南下飛鳥寺に到る。この
寺は蘇我馬子の本領によって崇峻
天皇元年(588年)に建てられた
日本最古の大寺で、ご本尊の飛
鳥大仏座像は飛鳥時代中国より渡
来した仏師止利の作といわれ、も
っとも大陸的な仏像で飛鳥文化の
基調をしのべせる。

蘇我馬子の墓であろうといわれ
ている石舞台を見て後高松塚と同

壁画館を見学する。展示されてい
る壁画再現模造模写は高松塚古墳
石槨と同じ材質の二上山系の凝灰
岩にしつこいを塗り群像を模写再
現している。しつこいのごれ欠
けなどもそのまま再現されていて
実物そっくり実に実によく出来て
いると思った。

高松塚の見学を最後にバスで帰
路につく。近鉄橿原駅にて5名下
車の後一路新大阪駅に向う。
新大阪駅着は3時40分頃、一同
再会を期し名残をおしみながら元
気に解散した。

(幹事 片岡記)

第7回洛友デルタ会 総会記

2年毎に開催される洛友デルタ
会総会も7回目を迎えることにな
った。当日9月18日は、例年にな
い夏梅雨の影響で天候が心配され
たが、幸い晴天に恵れて好運であ
った。当日は東は浜松西は九州か
ら会する同窓生総数50名、今年は
特に昭和13年卒業の方は、卒業50
周年記念として夫妻で京都見物二
泊の旅に当総会出席も兼ねて
企画されご夫人もご出席されまし
た。総会々場である鴨川河畔の近
畿地方発明センターに集合する。
定刻1時に藤村氏(昭11)司会の
もとに開会。竹村清氏(昭13)の

開会の辞に続き、今は無き恩師並びに会員に対し、哀悼とご冥福を祈り黙禱を捧げる。続いて越坂延夫氏（大10）代表より挨拶をされる。挨拶中で今後増えることのない会員はますます健康に留意して余生を全うすると共に会員相互の結束を固めること力説された。

その後幹事長神戸俊夫氏（昭14）から次のような経過報告がなされた。（1）洛友デルタ会代表越坂延夫氏（大10）は63年6月11日の洛友会総会於て洛友会副会長を承認され就任された。（2）名簿の整理は既に大正年代、昭2と昭5は終わっているが、64年12月に発行の名簿には第6回総会で承認を頂いた、昭6と昭15の整理を行います。その後住所、消息判明者は事務局まで一報下さい。次に昭61、昭62決算報告が、市川盛治氏（昭13）から、また同監査報告が湯浅幸雄氏（昭12）から行われ、これらに対しても出席者一同承認。

今総会にて提案事項、総会も回を重ねること7回となったが、総会当日の費用は当日の支出にて充当して参りました。総会の経費としては、(1)総会通知ハガキ印刷費、送料、返信料、(2)プログラム印刷費、欠席者への送料等の費用は総会開催毎に約35万円必要であったが之等は基金で賄って来た。基金の現在残は関電債1000万円、郵



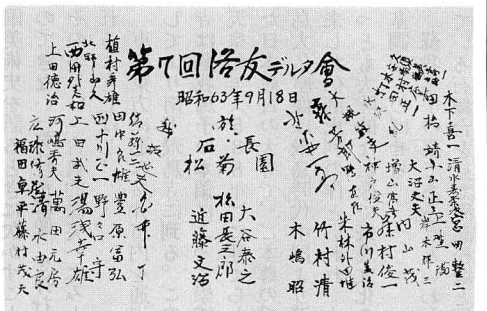
第七回京大洛友デルタ会総会 S.83.9.18 於 京都 石長松菊園

便預金25万円となり、資金的な面から今後のデルタ会の運営について次の様な点について討議を行った。A、デルタ会を今後共継続するか。

B、デルタ会の現手持金額がなくなったら閉鎖するか、結果としてデルタ会を継続することとなり、会の維持のための財政的な裏付けとして、C、関電債1000万円は取り崩さず、利息を通常経費の一部に充てる。D、年会費を会員の方から徴収して総会並びに通常経費に充てる。以上の提案説明があった。年会費20000円徴収の提案は出席者全員の承認があった。63年度年会費の徴収方法は経費節約

のため当日出席者は当日徴収、欠席者は総会プログラム送付の際、振込用紙を同封とする。この後、木村広美氏（昭12年）が閉会の辞を述べられた。

総会は午後1時40分無事終了した。引続いて「人類の未来を託すプラズマ」と題して京大、電子教室の板谷良平教授の講演が行なわれた。先生はOHPを駆使して、時代の先端を行くプラズマとのかかわりと、これを利用して未来に発展する工業方面への応用について興味深く述べられた。演後の実感としては、今後のプラズマの重要性が認識され、今後先生がこの方面をますますご研鑽されんことを念願した次第である。午後5時会場を懇親会場である「石長松菊園」に移す。懇親会に先立ちご来賓の松田洛友会々々長、大谷副会長、木嶋の各諸先生を中心に、京舞妓を交じえて一同記念撮影に入っている。午後6時大沼文夫氏（昭15）司会のもとに開宴、先ず上野満氏（昭15）挨拶に続き、大谷先生の祝辞を載せ、松田先生の首頭で一同乾杯して、いよいよ開宴、会するもの大正10年卒筆頭に昭15年まで50名、その年令総計は皆様のご想像におまかせ致します。途中近藤先生のおまかせ致します。途中近藤先生の祝辞があり、その後、松田先生の途中退場にあたり、先生作詩、作曲の洛友会の歌を95歳と



は思われない若々しい声で独唱されたのには我々一同驚きと共に感心しました。酒もほどほどに酔を發して年令を忘れ過ぎし青春時代にもどり、苦しかったこと、楽しかったこと、時の経つのも忘れて歓談に花が咲く。午後8時、名残りはずなないが閉会を荒井一郎氏（大10）が告げる。同ホテルに宿泊するもの、家路へと向うもの、それぞれの感慨を胸に再来年の再会を約して、袂を別つ、時正に午後8時半。（神戸記）

総会が丁度卒業50周年に相当するので、この総会に便乗して金婚式には少し間があるが夫婦同伴で50周年記念同窓会を開催した。卒業生中居所判明者18名の内、会するもの同伴7組（一部途中合流）の出席は一見出席率が悪いように思われるが、齢70歳を超え夫婦同伴で会合に出席出来たと思えば決して少くない数字ではない。

記念同窓会の前半は、デルタ会総会の次第に従って発明センターにおける総会、講演会に引続きホテル石長松菊園における記念撮影の後懇親会に出席した。

懇親会の挨拶の中で13年組の卒業50周年記念夫婦同伴出席のことを紹介され晴れがましく感じた。席上同級生はもとより初対面の夫人連中も10年来の知己の如く身の上や孫などの話のはずむことしきり。定刻解散後それぞれ夫婦個室で宿泊する。

翌19日後半の部は、ホテル石長を10時半に4台の個人タクシーに7組が分乗して出発。

地方から来洛された同級生はもとより、我等京都に長年居住している者でもさて京洛の名所旧蹟といえは、ゆつくりと拝観、鑑賞することは極めて珍らしいので今回は初秋の京洛北山めぐりとしやれ込む。

最初に訪れたのは、平家物語の

講昭和13年卒業 50周年記念同窓会

我等、電気工学講習所昭和13年度卒業生は、洛友デルタ会第7回

大原御幸で有名な洛北大原の里寂光院、ご本尊の地藏尊は相憎と修理のためご不在ではあったが、簡素ではあるがしつとりとした本堂、茶室などを拝観する。

次いで紅葉にはまだ早いが三学院へ向う。ここでは拝観に先立って一字一字誠意こめての写経に身心共にすがすがしくなつて本堂に参拝後往生極楽院へ向う。

ご本尊の莊嚴にして華麗なお姿や寺院の天井としては珍しい舟底型天井や壁面を拝観後、杉苔の美しい回廊式庭園を遊歩する。

正午昼食は、八瀬八平の焼立てうな重に舌鼓を打ちつつしきり回顧談に話はずむ。

午後の部は先ず金閣寺に向う。月曜日にもかかわらず参拝客特に修学旅行生の多いのに驚かされる。境内に入り松間に見える莊嚴華麗というよりは金色燦然たる三層の楼閣が太陽を受けて眩いばかりに輝やいているのは莊観だ。金閣を背景にシャッタを押すことしきり。

次に石庭で有名な龍安寺に向う。鏡容池を左手に眺め、これに連なる龍安寺垣根の由来を聞きつつ庫裡を経て方丈前の石庭に至る。庭に配された15個の石がどこから見ても全部は見えないという石群、石の形、集合、離散、遠近など見る人の思想、信条によって禅

的に多岐に解釈されるといふ説明にしばし無想の境地?にひたる。

以上で洛北めぐりは終り最終の嵐山の旅亭である嵐亭に着く。一同割当てられた個室に旅装を解き一しきり休息の後、本日の最後の趣向である名勝嵐峽保津川の船遊びとしゃれ込む。

船遊びとしては少し時期外れではあるが屋形船の提灯に火を点し暮れなすむ保津峽へ向う。船中には京料理の料を尽した珍味が所狭しと並べられ酒杯を傾け談笑裡に話はずむ。時期的なせいしか嵐峽に回遊するのは我等が一艘のみで天下の名勝を買切りの呈である。

しばらくして秋雨一過、雨中嵐山の様相であったが回遊一時間半にして嵐亭に帰着する。一同ロビ



にてしばしの休息をとり夫々の個室に引きあげる。

翌20日は相憎の雨もやいであったが朝食を済ませた頃より雨もあがり嵯峨野を散策する組や家路に向うそれぞれ組に別れて解散した。本同窓会に会した七組は次の通りである。

市川(盛)、内山、植村、沖、竹村、田中、豊原各夫妻(竹村記)

会員寄稿

羽村先生御示教御礼

大正十五年卒
日立電線
小宮義和

洛友会々報一四四号「青柳先生追憶」に対し、羽村先生から「私事」と題する御示教を頂き、厚くお礼申上ます。

青柳先生が「あたら前途ある多数の青年をあやましめることは残念だと仰ったのは、一般論で、羽村先生個人に対するお言葉ではありませんでした。お伺いした時期が、羽村先生御転任の頃と書いたのは、筆足らずでありました。

私が中学一年生の時、(一九一六)朝日新聞に河上博士の名著「貧乏物語」が連載され、それを

読んだ二歳余り年長の故橋本真吉氏は、「この本で社会の不合理を教えられた」と、後年私に話されました。併し私は其の頃朝日新聞の夕刊に連載中の漱石の「明暗」が、その死によって中絶して、絶筆となったことを記憶しています

私が中学四年の時、雑誌「改造」で河上博士と一橋大学の福田徳三博士とが、隔月連続での大論争をしておられたのを記憶して居ります。又、河上博士の個人雑誌「社会問題研究」が創刊されて、雑誌の裏表紙に毎月広告が出ていた記憶があります。中学生の私には「高嶺の花」と敬遠してました。

その頃私共を引きつけたのは、賀川豊彦の「死線を越えて」が二百版を越え、また、石川啄木の「悲しき玩具」「握の砂」など社会主義的な傾向のある読物でありました。

高等学校三年(一九二二)の一学期には、学期全部を校長排斥のストライキで、全生徒休学処分を受けました。所謂「大正デモクラシー」の最高潮でありました。

処が翌年大学に入った時、高等学校で「軍事教練」が、他の学校に一年遅れて始まりました。青柳先生から「アメリカの大学でも軍事教練をやる学校がふえている」と

聞いたのもその頃でした。

青柳先生は決して偏狹な愛国者ではありませんでした。私の近親で終生を精薄児の教育に捧げた人が、アメリカを視察して、日曜毎の教会の社交振りを見て帰国したのち、内村鑑之氏の二つのJ(ジャパンとイエス)の無教会に共鳴して「日の丸会」を作つて、青柳先生に御支援お願いに参上した時にも「日本だけを目標にするのは狭い。世界を考えよ」と仰いました。併し先生を代議士候補に担ぎ出した人達の中には、当時の左右対立激化を憂い「赤化防止」に熱心な人も少なくなつたと聞いています。

その頃、河上博士に関しては雑誌を通じて知るのみでした。戦後博士の「自叙伝」が出版され、「獄中記」を読んで、純真人道主義の御性格やら、昭和三年(一九二八)3月15日の共産党大檢舉(3・15事件、全国で16000人檢舉、484人起訴)の2ヶ月後に、河上博士が京大教授を辞職されて、やがて地下にくぐつて、共産党入党許可を喜ばれたことなどを知りました。

翌昭和4年4月16日にも、日本共産党員339人起訴の大檢舉(4・16事件)がありました。

私の就職のお世話をして頂いた教室幹事の大竹太郎先生に、「日本

の大企業は将来みな国有になるの
でしようか」とお尋ねしますと、
「ソ連は大きな実験をしているの
だよ」と教えて頂きました。

その後の英国の炭鉄・製鉄など
が国有化し、又私有化に戻り、中
国に自留地・万元戸が現れ、最近
のソ連のペレストロイカなどを見
ていると、大竹先生のお話を思出
します。

戦後に読んだ河上博士の「自叙
伝」で、検事が「刑期短縮」を条
件として求めた博士の「転向声明」
を博士が拒絶されたいさぎよさに
感心しました。

獄中で「白楽天」「陸放翁」の
詩詞を愛読され、戦後「陸放翁鑑
賞」上下二巻が出版されました。

その上巻には英文学者寿岳文章
氏、下巻には三高同級生吉川幸次
郎著の「後記」が加えられていま
す。

寿岳氏は英語のお手伝いで、河
上家にお出入された由で、昭和24
年(1949)私が向日市の御近
所に住んでから現在まで、家族ぐ
るみのおつき合いをしています。が、
河上博士の人道主義には、敬服し
ていられました。

昭和54年(1977)、中国が国
内旅行を開放したのち、上海の古
書店で「陸游」と書くと、すぐ背
後の本棚から、秩入の上等本や、
紙質の悪い活字本など四種類を並

べました。
青年達は昔の本に興味が無く、
工学・科学などの本屋に列をなし
ていました。

陸游の「入蜀記」は、明治9年
(1876)、日本の外交官(のち
東大教授)が蜀(四川省)に入る
までは、唯一の「蜀」の案内記で
した。

陸游の人間味溢れる「宋詩」「宋
詞」を愛読された河上博士に対し、
私は「河上博士と陸放翁」を昭和
40年に書きました。(63・9・26)

中国雑記(7)

昭和二十三年卒
陶坊資

北と南

北方と南方とは、色んな点で習
慣が違う。勿論どこまでが北で、
どこからが南方か、厳格な規定は
ないが、一般には、黄河又は楊子
江を境と考えている人が多い。ト
イレについての南北の差、最も代
表的な差といえば、北方はしゃが
むのが普通であるに反し、南方で
は腰かける姿勢をとる事がある。
国家標準は、前述の如く、しゃが
む方式を推奨している。これは衛
生的見地からである。即ち公衆道
徳の水準が充分高まらないと、器

具の衛生も維持し難く、直接肌を
触れるチャンスになるべく少なく
する様に、腰かけ式を敬遠した訳
である。

ところが、南方の者が北に来た
場合は、一般には問題がないが、
北方の者が南方に旅行すると問題
が生じる場合が多い。即ち、腰か
けると、出るべきものも出なくな
ってしう者がいる。特に固いもの
を出す時、いきむ必要ある者にと
っては、腰かけてしうと、力が入
らず、効果よくいきめなくなる人
が北の人には案外多い。この様な
場合は、止むを得ず、便器の上に
乗っかってからしゃがむ事となる。
強度の足る安定した便器ならよ
いが、グラグラのものやおまると
なると極めて不安定であるので、
情況によっては、横から支えてや
らねばならない。毎回用を足す毎
に他人に介添して貰うのは心苦し
いであろうが、支える身にとつて
も、おかしいやら、気の毒やら、
まあほほえましい光景とでも云う
しかあるまい。

豚トイレ

人糞を豚に喰わせる、これは中
国有史以来の最も合理的な自然の
リサイクルの一つである。豚の糞
は絶好の肥料であり、食肉と農作
物両方が得られるからである。故

に豚小屋で用を足すのは、中国人
民古来からの習慣であり、現在も
特に北方農村では、殆どこの形式
である。

昔読んだトイレの本で、豚便所
の話があり、最後には豚がお尻を
きれいに舐めてくれると書いてあ
ったので大いに興味をそられた。
それは子供の頃家で飼っていた私
の体より大きい犬と始終しゃれ合
って遊んでいたが、或時腹具合が
悪く糞を大量に洩らした所、その
犬が忽ち皆喰ってしう、且つお尻
をペロペロ舐めてくれたが、あの
気持よさをずっと覚えていたから
である。

北京郊外の山間部僻村にある公
衆便所は、先ず大きな穴を地面に
掘り、その上に二枚の踏み板が並
べられてあり、両足をその上に夫
々置き、しゃがんで板の間から下
に落ち、穴の中には大きな豚が何
匹か元気に動きまわっていて、落
ちて来るものを忽ち喰ってしう。
時々上を向いて、後足で立ち上が
り、吠える。催促であろう。中国

の豚は、黒くて大きく毛も粗い。
正に牙のない猪である。見た丈け
で縮み上がったしう人もいる。踏
み板は夫々の周期で振動し、且つ
しゃがんでいる姿勢は極めて不安
定であり、誰かが板に踏み込んで
来ると、途端に板がしなるので、
それこそお尻丸出して穴の中に転

がり込みそうになる事、度々であ
る。神経のそれ程細くない筈の小
生でも、決して良い気持ちのもの
ではない。

或農村では、女性は昼夜とも豚
小屋で用を足すが、男性は夜しか
豚小屋の使用を認めず、昼は屋外
か野らで垂れる。大体北方の農村
では豚を一日に一度か二度野に放
つ。豚は自分でそこら中を馳け巡
り、喰えるものを探して、人糞で
も何でも食べてしう。その辺をき
れいに掃除して且つ餌代を節約出
来るから一挙兩得となるのだ。こ
れは北方の貧しさから生じた風習
であろう。北方を汽車や自動車で
走ると、至る所で豚が自由にうろ
ついているのを見かけるし、田舎
の小都市の食堂に入ると、机の下
で膝やすねにゴツゴツぶつかると
のは犬でなく、残飯を餌に求める
豚なのである。

南方では、豚を放牧する習慣は
古い。やはり、気候が暖かく、相
対的に人口密度が高く、豊かであ
るからであろう。
豚と農民とは、確かに関係が深か
った。田舎では未だ当分の関係
は続いて行く事と思うが、人糞を
通じての關係は果していつまで続
くのであろうか。思うに文明文化
の近代化と共に、やはりその中に
消え去って行くのではないか、又
そうなるべきであらう。

おまる

私の故郷は無錫である。此処は太湖の畔で、昔から風光明媚、且つ衣食住共非常に豊かな「魚米之郷」である。東は蘇州、西隣は常州であり、上海、杭州、楊州、南京等も極めて近い。最近日本で流行している「無錫旅情」のあの無錫である。

この江蘇、浙江一带の人々は、一般に、家にトイレがなく、皆おまるを用いる。街にある公衆トイレの脇には必ずおまるの中身を捨てる所があり、一般には朝一番に溜ったものを捨て、洗って持ち帰り、家の外にさかさにして乾かしておく。洗う道具は、竹を細く割ったものを束ねたものである。何の事はない、茶道の茶笥のでかい奴である。逆に小生は、昔茶笥でお茶を立てる度に、いつもこのおまるの洗い思い出したものだった。

この茶笥の如きもので、チャッチャッと威勢の良い音をたてて洗う。毎日早朝このリズムある響きが聞えて来ると、ああ朝だな、と感ずる訳である。未だ寝ぼけ眼の子供らが、自分のであるう小さいおまるを捧げて、公衆トイレに向う姿は、この地方の一つでも見かける朝の風景の一つである。最近所用で、寧波、常州等へ行ったが、

早朝の風景は、それこそ、何百年来続けられて来た庶民のおまる生活そのものであった。

おまるも大小さまざま且つ色とりどりである。一般には木製の桶であり、漆が塗られ、中々立派である。ピツタリした蓋が、ついているので、一旦蓋をしめると、中の匂いは外に出ない。子供用のは小さく蓋がないものもある。最近はずり引きのものも出来たが、腰かけるとお尻が冷たいので、使用時には、ふちにゴムかプラスチックの輪を載せる。

ある県(中国の県は、市より小さい)で、新しく建った中々立派な三階建ての家族宿舍を訪ねた所、どの家にもトイレがない。部屋の片隅におかれてあるおまるを指して「どうぞ」と来る。おまるの生活は、此の辺では実に根強く人民生活に入っている、近代建築でさえ、その習慣に従っているのだ。

大体日本では、病人は別として健康人は少し位遠くてもトイレに自分で行く。私の母の里は仙台郊外の田舎であるが、どんなに寒くても、雪を踏んで、母家を遠く離れたお風呂場の隣のトイレに行かせられた。もっとも子供であった私達は、こっそり縁から両戸の隙を通して庭へ放れたものだった。何れにしろ、おまるという考え方は、日本では、宮殿や高貴の方々にはあっても、我々庶民には全くなかった様である。

日本では何か昔から一種の潔癖症があり、排泄は汚ないという考えから、排泄は部屋から離れた所での観念が生じた様だ。又他人のお尻が触れた所に、自分の肌を載せるのは気色悪いという考えも強くなり、日本ではずつとしゃがむ姿勢をとって来たのかも知れない。最近、衛生状態もよくなつて来たし、高齢者も増え、又医学的見地から、日本も腰かけ式がどんどん増えている様である。

最近見た「古井戸」という中国映画で、婿入りした主人公が、毎朝起きるとすぐおまるを捧げて豚小屋へ行くシーンが、いとも自然に何度も出て来た。日本人が見れば想らく奇異に見えた事があるうが、そこでは、やはり何百年も続いて来た生の生活なのである。

つい最近(1987年11月)私は、兄と弟と一緒に無錫に帰り御先祖様のお墓詣りをした来たが泊った親戚の家は勿論トイレはなかった。兄と弟は子供の時無錫を離れてから50年ぶり、私は30年ぶりの帰郷であったので、久々に伝統あるおまる生活にどつぶりつかり、そのなつかしいお尻の感触を心ゆくまで楽しんで来たのであった。

(以下次号)

会員住所変更一覽表 昭和63年11月30日現在 (表中略敬称)

前号(昭和63年10月号)に題記発表後11月30日までに次の会員の住所変更のご連絡がありましたので掲載致します。これ以後の分は、次号掲載とさせていただきます。あしからずご了承ください。表中、卒業年次の次の数字は、前月号の一覽表中の表示と同一ですので省略致します。

Table with 5 columns: 卒業年 (Graduation Year), 氏名 (Name), 住所 (Address), 郵便番号 (Postal Code), 電話 (Phone Number). It lists address changes for members as of November 30, 1963.

卒業年	氏名	住所	〒	電話
昭463	尾村 利逸	三鷹市井の頭4-16-10	181	0422-49-1503
" 471	野村 道彦	福岡市南区平和1-6-50 平和アパート9232	815	092-526-2054
" 471	増尾 毛	千葉市小食土町1182-11 あすみが丘2-31-8	299-31	04757-4-3062
" 473	尾谷 高信	大阪市東住吉区公園南矢田2-1-9	546	06-607-8658
" 473	吉門 康達	東京都新宿区百人町3-27-1-805	160	03-367-3570
" 473	小松 廣郎	京都市西京区大枝北香掛町2-2-6	610-11	075-333-0182
" 481	高橋 美司	立川市砂川町6-18-13	190	0425-37-0042
" 481	村上 雅隆	狛江市和泉本町1-4-1 東海第2狛江マンション	201	03-489-9652
" 483	船津 隆	与野市鈴谷5-2-15 南与野ロイヤル302号	338	0488-52-8437
" 483	森田 憲彦	横浜市泉区白百合3-24-6	245	045-813-2050
" 492	小野 勝博	河内長野市清見台3-20-9	586	0721-63-5139
" 492	小谷 章博	所沢市山口5168-57-1-403	259	0429-22-8782
" 492	山本 士郎	宝塚市中筋山手1-4-2	665	0797-88-8481
" 501	島石 義博	広島市西区鈴が峰町38-7-502	733	082-278-7223
" 502	田中 俊	東京都大田区山王3-34-1 金森誠也方(留守宅)	143	03-771-1900
" 503	石原 均	熊本市保田窪本町673-7	862	096-385-6017
" 511	岡田 久夫	伊丹市荻野3-50-2 中島マンション202号	664	0727-77-5024
" 512	岡内 博文	奈良県生駒郡安堵町大字かしの木台2-1-30	639-11	07435-7-2079
" 522	鈴木 健郎	寝屋川市三井が丘4-9-83-106	572	0720-24-6258
" 522	鈴宮 壮一	海老名市柏ヶ谷967-1-203	243-04	
" 531	岡田 富雄	横浜市緑区荏田南5-20-7-502	227	
		東京都練馬区旭丘1-38-15	176	03-954-6522
		旭丘グリーンビレッジ501		
" 532	久良木 億男	小平市花小金井南町1-3 NTT12-301	187	0423-86-0970
" 533	村上 恒一	神戸市東灘区御影石町2-12-28	658	078-822-1095
" 541	本勝 晃	枚方市香里園山之手町5-10	573	0720-31-0018
" 542	川有 誠八	横浜市金沢区泥亀1-25-3-417	236	045-701-7324
" 543	東井 藤上	福岡市東区千早2-5-21 汐見A P8121	813	092-671-5106
" 543	伊井 倉	東京都世田谷区北沢4-5-1 ドエル北沢301号	155	03-485-4058
" 551	中安 哲誠	川崎市麻生区百合ヶ丘2-5-39-304	215	044-966-0956
" 551	伊藤 直隆	津市南丸の内5-1 中電吉河社宅1-3	514	0592-24-0631
" 551	尾川 一人	東京都新宿区西早稲田2-17-19 関電社宅104	160	03-203-3972
" 552	藤上 志幸	川崎市高津区新作5-11-5-E308	213	044-852-7302
" 552	伊村 隆博	甲府市荒川2-3-23	400	0552-52-0849
" 553	中内 幸肇	伊丹市緑ヶ丘7-57-5 カルム緑ヶ丘402号	664	0727-78-2287
" 561	嶋宮	習志野市谷津3-1-16-203	275	0474-53-5461
		京都市左京区北白川東久保田町62	606	075-781-8124
		白川ロイヤルハイツ111号		
" 563	小三山 修一	福山市柳津町1993-1 (連絡先)	729-01	0849-33-2237
" 563	林浦 修公	日立市国分町3-8-18 日立恒和寮B-501	316	0294-33-3721
" 563	近藤 真人	滋賀県甲賀郡甲西町菩提寺1529-136	520-32	0748-74-2951
" 571	川上 肇	伊勢原市高森1286-2 東成瀬ハイツ1303	259-01	0463-93-0975
" 571	野上 栄	東大阪市新庄786 川上義雄方(連絡先)	578	06-746-9344
" 572	伊野 修夫	伊丹市柏木町3-16 三菱電機チョコ国寮	664	0727-72-2985
" 572	飯塚 修夫	千葉市千草台1-1-21-102	260	0472-56-5356
" 573	斎藤 裕夫	桑名市大田山1-8-2	511	0594-31-4682
" 581	斎藤 裕夫	小田原市矢作163-1 矢作アパート15号	250	0465-48-2137
" 582	藤加 英卓	東久留米市上の原2-4-65-46	203	0424-74-4349
" 582	松芝 卓	町田市南つくし野3-9-2	194	0427-96-0238
" 582	国米 宏志	横浜市戸塚区原宿町367日立原宿アパートA-508	245	045-852-7092
" 592	浜田 浩博	東京都大田区下丸子2-19-18	143	03-758-6813
" 593	黒田 浩博	日立市国分町3-8-18 日立恒和寮B-304	316	0294-33-3721
" 593	柴田 浩博	日野市南平5-20-62 シャトレ-302号	191	0425-92-1778
" 601	嘉数 昌明	京都市左京区浄土寺南田町25 銀砂荘28	606	075-751-9395
" 601	加吉 永一	岸和田市東ヶ丘町808-331	596	0724-43-2811
" 601	清水 周文	西宮市両度町3-4-305	662	0798-65-1744
" 603	本水 雄三	東京都世田谷区奥沢5-6-12-A	158	03-718-0433
" 603	水田 敬	川崎市多摩区菅北浦3-4-56-203	214	044-945-0743
" 611	砂野 敬	藤沢市辻堂新町2-1-33 コーポ布施103	251	0466-34-8623

講大10 石川 四郎
 講大12 小森 修二
 講大13 名和 兼一
 講大13 浜和 庫喜
 講大14 内田 澤二
 講大14 瀬川 健一
 講大13 中本 徳次
 講大13 山田 幸男
 講大13 佐世 国雄
 講大13 平井 信好
 以上の方々が逝去なさいました。謹んで哀悼の意を表します。

2	2	2	頁
5	3	1	段
6	8	12	行
七・三・五	呼ばず	追悼	誤
七・五・三	言はず	追憶	正

訂正
 会報一四五号中左記のとおり誤りがありましたので、謹んで訂正致します。